学校教育目標		夢と志をもち 果敢に挑戦し 自己実現する児童生徒の育成					経営理念				〇小中一貫教育校として、学校、家庭、地域が相互に連携協力の理念に基づき、「協調」と「信頼」で結ばれる教育環境を実現し、児童生徒の「育ちと学び」を支援していく。 ～児童生徒に軸足を据えた教育活動の展開～				
評価計画						自己評価				改善方針		学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)			
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		評価 (2月)	結果と課題の分析 (2月)	改善方針 (2月)	評価 (2月)	コメント (2月)		
							10月	2月							
確かな学力(学習活動)	1	・学びに向かう力を養え、育てたい資質能力「推論する力」の育成を図る。 《重点》 地域伝統文化再生プロジェクト(小) 《新規》 《新規》 単元末試験の導入(中)	・小中一貫・接続教育を推進し、児童生徒が安心して学習できる教育環境を整える。	・理科、英語、音楽、保健体育の準教科担任制の導入と総合的な学習の時間でのITを実施する。	・児童アンケート(授業満足度調査)を実施し、児童の満足度の割合を85%以上にする。	85%	小84.0%	小80.5%	小94.7%	3	・78.9%の児童が「学校の授業は楽しい」、81.6%の児童が「学校の授業はよくわかる」と回答している。「わかる」実感に伴え、「楽しさ」につながるものと考え、また、児童を小中の複数の教員が指導することによって、多面的な児童理解ができた。(小)	・今年度の準教科担任制で得られた理解をもとに、学校全体でわかる授業づくりのための授業改善を続ける。(小)	B A5 B8 N1	・良い教育を求めている。 ・授業者や担任に負担のない範囲で行ってほしい。 ・乗入授業を行う目的を共通理解して指導してほしい。 ・児童生徒に「なぜそのように回答したのか」を聞いてみてよいのではないかと。	
			・学びを支える力として、基礎的・基本的学力の定着を図る。	・授業や家庭学習の充実を図り、学力向上の取組を行う。	・家庭学習習慣の定着70%以上にする。 ・CRT(算数)、習熟度テストを超える割合を70%以上にする。	70%	小88.0% 中73.8%	小82.3% 中74.3%	小118% 中106%	4	・82.3%の児童が「家庭学習に取り組んでいる」と回答している。また、CRT(算数)において、学校設定スコアを上回った学年は2学年(6学年中)であった(小) ・74.3%の生徒が「フォーサイトノートを活用して、計画的に家庭学習に取り組んでいる」と回答している。また、習熟度テストにおいて、数学67%、理科71%の生徒が学校設定スコアを上回った。(中)	・児童に家庭学習の意味を説明したり、意欲を持続できるように担任が関わったり、保護者への協力を求めたりする。(小) ・引き続き、フォーサイトノートを活用し、粘り強く学習に取り組ませる。また、効果的な活用例を提示し、活用方法を充実させる。(中)	B A6 B6 C2	・各地域センター等で定期的に地域の力を借りながら「家庭学習教室」を開催できるよう働きかけたい。 ・家庭学習におけるICT活用を推進してはどうか。 ・次のステップとして、家庭学習の中身にも目を向けてはどうか。	
			・学力向上のためのICT活用の推進を図る。	・ICT機器の利点を生かした活用をする。			4	小94.0% 中97.0%	小87.5% 中99%	小125% 中141%	4	・後期は協働学習において、効果的に活用する場面が多かったため、87.5%の児童がICTを使うことは勉強に役立つと回答している。(小) ・99.0%の生徒が「ICTを使うことは勉強に役立つ」と回答している。授業や家庭学習においてICTを使う場面や方法工夫されている。(中)	・基礎的な力の定着を図るため、タブレット等継続的に活用する。(小) ・引き続き、各教科における効果的なICTの活用方法を探り、継続的な活用を行う。(小中)	A A10 B4	・様々な場面で効果的な活用を進めてほしい。 ・「基礎・基本の定着」のために、従来型の学習にある良さも大切にほしい。 ・幼いころからICT機器に触れることは良いが、AIの危険性にも触れていく必要がある。
			・eSTEAM教育を推進し、児童生徒の「推論する力」を育成する。	・総合的な学習の時間を中心に発達段階に応じて、系統的かつ計画的にeSTEAM教育を推進する。	・一人一人eSTEAM教育を取り入れた授業を実施する。	85%	小中 115%	小中 125%	小中 147%	4	・1年間をかけて取組の方向性が共有化されつつある。(小中) ・総合的な学習の時間をベースに各学年で協力しながらeSTEAM教育を取り入れた授業を進めた。また、数学科、理科、保健体育科においても各教科の特性に応じた研究授業を行い、他校に公開したり、新聞に取り上げられたりすることを通して、普及することができた。(小中)	・来年度の教育研究会に向けて、STEAMの視点を生かし「推論する力」を育成・発揮する単元(授業)づくりの充実を図り、実践を積み上げる。(小中)	A A9 B4 N1	・社会人になっても推論する場面は多いことから、この力を伸ばすことは必要である。これからも実践を積み上げてほしい。 ・公開研究会に向けて、内容を端的に表した資料作りをするように。 ・子ども自身の主体的・探究的に学び、表現活動にも工夫の見える公開研究会にしてほしい。	
豊かな(心・生徒健指や導かな)な体	2	・自立・自律し、自他を大切にし、自己の健康と体力について理解し、高めていくこととする児童生徒を育成する。 《重点》 部活動の地域展開 *東広島市教育委員会モデル事業 《新規》 小中合同スポーツ大会の実施	・児童生徒の自己有用感を高め、アイデンティティの確立を図る。	・児童会や生徒会活動をはじめ、部活動、クラブ活動、委員会活動等を通じて、児童生徒の主体性と自発性を育てる。	・児童生徒質問紙「集団(学校、学級、部活動、地域など)のために自分の力を使ったり、人と協力したり取り組んだ」と答える児童生徒の割合を85%以上にする。	85%	小87.0% 中98.0%	小85.4% 中95.0%	小100% 中112%	4	・学級の当番活動や委員会活動において、それぞれ役割を果たすように指導した。(小) ・生徒会活動や部活動等だけではなく、総合的な学習の時間において、地域を題材にして探究的・課題解決に取り組む過程を通して、協働的に学ぶ場面を設定した。(中)	・児童生徒が主体性と自発性を発揮できる場を、学習・生活・行事等で設定する。また、活動における役割を明確にして取り組ませる経験を通して、自己有用感を高める。(小中)	A A10 B2 N2	・自己有用感を高める良い取組がなされている。 ・小中合同のランチミーティングを他の活動にも広げてほしい。 ・社会人になってもリーダーシップを発揮できる人になってほしい。	
			・食や健康について考えるとともに、自己の体力の向上に主体的に取り組んでいく児童生徒を育成する。	・児童生徒自らが目標を立てて健やかな体づくりに取り組む。 *小中合同行事の設定など	・体育、学校行事、部活動を行う際に目標を設定し、「体力向上に取り組むことができた」と答える児童生徒の割合を85%以上にする。	85%	小86.4% 中91.0%	小83.9% 中88.1%	小98.7% 中104%	3	・後期は2.5%減少。できるようにした実感が持ていないことが原因と考えられる。 ・後期は2.9%減少。後期は体育の行事が少なかったことが原因として考えられる。体育では長距離走でラップタイムを意識して取り組んだ。(中)	・取組の前後の様子をそれぞれ動画撮影・記録し、比較することで成長の様子をとらえられるようにする。(小) ・クラスマッチや駅伝大会に向けて、チームで目標を立て取り組む。(中)	B A8 B6 C1 N1	・食や健康に関する児童生徒の意識を高める取組をしてほしい。 ・一人一人の得意分野で伸びるようにしてほしい。	
			・児童生徒が安全で安心できる教育環境を整える。 *生城山(おおぎやま)ルーム開放(不登校児童生徒への対応)	・スクールカウンセラーや心のサポーター等と連携を図ったり、SSRを運営したりする。	・児童生徒質問紙「安心・安全に学校生活をおくることができている」と答える児童生徒の割合を85%以上にする。	85%	小84.1% 中99.0%	小93.3% 中99.0%	小110% 中116%	4	・後期は92.2%上昇。学級の取組を通して自分の居場所ができた。一層、活動する楽しさを感じたりすることができた。(小) ・文化祭のクラス合唱を通して、集団として成長ができた。 ・文化祭のクラス合唱を通して、集団として成長ができた。また、気になる生徒についてSCや心のサポーターと連携し、支援を行うことができた。(中)	・日々の生活や行事等を通して、居心地の良い集団づくりを行う。(小中) ・スクールカウンセラー等との連携を密にして児童生徒の状況を把握して支援につなげ、生城山ルームを効果的に活用する。(小中)	A A7 B6 N1	・良い取組になっている。 ・日々の取組を通して居心地の良い集団づくりが行われている成果が出ている。 ・継続的に取り組んでほしい。	
信頼される学校	3	・地域とともにある学校として、信頼される学校づくりを推進する。	・コミュニティスクールの体制をもとに、地域連携を推進する。	・コミュニティルームを拠点とした地域人材との連携や活動を実施する。	・コミュニティスクール推進委員と地域学校協働活動推進委員との連携を毎月1回行う。	85%	小中 100%	小中 100%	小中 118%	4	・「東広島市CS及び地域学校協働活動の一体的推進に係る情報交換会」に参加し、先進地域の取組を学ぶことができた。 ・小74.0%、中93.0%の保護者が「地域の人材や施設を積極的に利用し、CSとしての特徴を出している」と回答している。(小中)	・来年度は、学校内に地域学校協働活動推進員の拠点を作り、さらなる連携を強化する。(小中) ・先進地における取組みを全委員で学ぶ研修を設ける。(小中)	B A5 B9	・定期的な協議の場を設定し、連携を強化する。 ・子どもたちが広島から出て「戻ってきた」と思える故郷となるように、地域として考えたい。 ・役割がはっきりすると動きやすくなるので、組織づくりを進めてほしい。 ・CS活動が可能な人材の育成を進めてほしい。	
			・学校HPや学校だより等による情報発信を定期的に行う。	・学校の取組や児童生徒の躍動的・活動的な様子を広く発信する。	・学校だよりを毎月発行するとともに、学校HPも随時更新する。	85%	小中 100%	小中 100%	小中 118%	4	・毎月発行の学校だより(下半期予定5回)や学年だより、HPなどを活用して随時情報発信をしている。(小中)	・来年度は、保護者には市民ポータルへの配信、地域には二次元コード等によるHPへの誘導を可能にする。(小中)	A A11 B3	・学校だよりを読むことを楽しみにしている。 ・学校運営協議会のレポートもアップできるようにした。 ・CANVA等の活用も考えてはどうか。	
働き方改革	4	・業務改善を推進、超過勤務時間の月平均45時間以内を目指す。	・働きやすい環境づくりを推進し、教職員の健康促進を図る。 ・働きがい、やりがい等の意識の醸成を図る。	・小中一貫校としての校務運営組織の見直しと精選を図る。 ・地域の協力体制ネットワークの構築を図る。	・学校衛生委員会において、入退校記録等に基づいた分析を毎月1回行う。	70%	小中 100%	小中 100%	小中 143%	4	・授業や行事等に対してPTAや地域の方の協力を得たことが充実した指導につながっており、児童生徒と教職員のやりがいや満足につながっている。(小中) ・毎月1回学校衛生委員会(下半期予定5回)を開いて分析を行っている。後半期は、小中ともに12月、1月は超過勤務時間の月平均45時間以内であった。(4~1月の平均超過勤務時間は小40.23、中44.44であり、昨年度に比べ大幅に縮減できた)	・来年度も授業や行事等への地域人材による協力・支援を引き続きお願いする。(小中) ・標準時数を充足させる見直しがあったため、1月以降5時間日課とし、来年度に向けた計画を立案している。(中)	A A9 B4 C1	・手法は間違っていないと思うので、引き続き努力をしてほしい。 ・学校や先生のために手伝えることがあれば協力したい。 ・今後小中一貫校として円滑な校務運営が進むよう、地域のネットワークの構築と組織の見直しと精選に取り組んでほしい。 ・残業代が出ない中で月の45時間は多い。	

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
4...100%以上 3...90~99%達成 2...80~89%達成 1...79%

■学校関係者評価
A...とても適切である B...概ね適切である C...あまり適切でない D...全く適切でない (N...判定できない)